

企 救 の 浜

末 永 弥 義

(昭和五十一年卒)

梅雨入り前の晴天の日曜日、妻と自宅近くの朽網川を下って河口まで歩いてみました。

河口の防潮堤を降りた狭い砂浜に、カプトガニの甲羅が打ち上げられているのが目にとまりました。

さて、私の話をはるか古代にさかのぼります。

七世紀後半から八世紀後半に編纂された『万葉集』には「企救」の地名が詠みこまれた和歌がいくつもあります。巻十六にある「豊国の 企救の池なる 菱の末を 摘むとや妹が み袖濡れけむ」は、とても風情がある秀歌であります。他にも「企救の浜辺」「企救の浜松」「企救の長浜」「企救の高浜」というように、企救といえは「浜」がつきものとなっているようです。では、この企救の浜とはどこだろうかと考えてみました。

奈良時代の豊前国は企救・京都・仲津・田河・築城・上毛・下毛・宇佐の八郡からなっていました。企救郡は現在の北九州市のほぼ東側半分、門司区・小倉南区・小倉北区に相当します。話が少しそれるかもしれませんが、

「すべての道はローマに通ず」という言葉があります。ローマ帝国領土の拡大とともにヨーロッパ各地と首都ローマを結ぶ街道を整備していききました。この街道は中央集権的な国づくりを行うための軍用道路の一面がありました。一方わが国でも七世紀後半の白鳳時代以降、律令制の施行による中央集権国家を目指して、奈良の都と地方を結ぶ道路網が整備されました。そのうち奈良から現在の関東地方である東国へ向かう道が東海道、奈良と九州の中心地大宰府を結んでいたのが西海道です。西海道は中国地方から関門海峡を渡りますが、到津から南東に分岐して苅田から京都平野を南下する支線の東路がありました。東路はこのルートとは別に企救郡内の少し東寄りの足立山の西麓を南北に走る近道があったことも想定されています。いずれにしても小倉南区の長野から曾根付近を当時の国道(官道)が通過していました。

西暦七六九年、道鏡の皇位就任を阻む宇佐八幡の託宣を朝廷に持ち帰った和氣清麻呂が、足立山で足の傷を癒したという伝承は当地ではよく知られています。麓の意原八幡神社には和氣清麻呂の像が建立されています。また、朽網駅の北側にほど近く、帝踏石という景行天皇ゆかりの巨大な岩石の露頭があり、初期の大和朝廷と当地の関係が垣間見えます。



奈良時代の企救郡の役所跡は発見されていませんが、長野一帯では当時の貴重な土器や瓦などが出土していて、特に長野角屋敷遺跡では重要な木簡が発見されています。この木簡は企救郡の長官である物部臣今継が正倉の管理者である膳臣澄信を召喚する命令を記したものです。この例から見ても長野付近に企救郡の役所があったことがうかがわれ、曾根平野は当時企救郡の中心地であったようです。

俺って宇宙人かも？

川 本 潔

(昭和四十八年卒)

まずは板倉前幹事長、長い間お疲れ様でした。これからもご指導の程よろしくお願い致します。平成二十九年度から加来新幹事長のもと北九州錦陵会は、会員相互間の親睦と健康増進など図ることを目的とし、春と秋は「ゴルフや山歩き、夏には船上からの納涼花火大会などの新企画がスタートしました。今回、私が参加したのは第一回春の「ゴルフコンペ」です。四月二十三日、新緑の若葉が美しく輝く絶好の「ゴルフ日和」の中、加来先輩と後輩の鬼木さん、村上さんとの初めてのラウンドになりました。私がこのチサンカントリークラブ遠賀でプレイするのは三十数年ぶりですが、初めてグロスで二ケタになった思い出のあるゴルフコースです。スタート前のティー

グラウンドからパティンンググリーンでパター練習をしている人に、言わば強引に写真撮影を依頼。そして、「テラーメイドの3番よろしくお願いします」と一礼し、遠賀コースの1番真っつくなロングホールをスタートしました。ティーショットは先ず先ずでしたが、小さなグリーンに手古摺り、いきなりトリプルボギーです。他のメンバーもボギーやダブルボギーでした。これで少しリラクセスできたのが、ドライバーだけは絶好調でした。しかし、今回キャディーも兼ねて頂いた鬼木さんからコースの特徴や方向など適格なアドバイスをいただいたにもかかわらず、村上さんのバーディーがたった一つだけというハイスコアの戦いでした。それでも同窓の好いまま、学生時代に直ぐタイムスリップでき楽しくラウンドする事が出来ました。スコアは概ね予想通りの結果になりましたので、あえて報告は控えたいと思います…。

私は昭和29年6月生まれれの63歳。身長178cm、体重77kg、血圧135/80、少しお腹の出た90歳くらいまではゴルフがやりたい白髪頭の老人です。学生時代は軟式テニス部で県大会に出場。文化祭では教室でドラムを叩き、西野先生からは「文化祭とは何とぞや」と体育館で叱られました。卒業後は一級建築士を目指しましたが、麻雀・パチンコ・



映画鑑賞、…で大学を中退。その後、国鉄に入社し結婚を機にゴルフに魚釣り、そして囲碁や将棋を奥深き良き友としてきました。

ゴルフは奇跡が起こるからやめられない。また、ゴルフ場はアマチュアゴルファーにとって「珍プレイ」「好プレイ」の宝庫だとも言われています。皆さんもきつと一つや二つはあると思います。私はゴルフ人生の中で忘れられない事が二つあります。

先ずは、珍プレイです。同級生で北九州錦陵会の幹事でもある小林君が勝山御所カントリークラブの支配人をしていられることもあり、五十歳の当番期から始めた「錦陵48会」ゴルフコンペも今年の四月で60回を数えます。色々な事がありました。たしか七、八年前だったと思います。勝山御所の「Nコース」の10番パー4、ティーショットしたボールが左の崖から転がり落ち、運が良かったのか？池に入る寸前で残っていました。如何にか両足を池の淵にあ

る杭の上に乗せることでスタンスが取れたので、そのまま打つ事にしました。そして打った瞬間、ボールはグリーンにパーオンしたのですが、体はバランスを崩し池の中にトポーンです。

そしてもう一つは、平成十七年四月三十日、京都カントリークラブで行われた職場内のコンペでのこと、4番45ヤード、真っ直ぐなロングホールのパー5で、何と私の二打目があるところかカップインしてしまいました。何とアルバトロス（日本語ではアホウ鳥）を達成したのです。因みに週一ゴルファーのホールインワンの確立は、上級者は25年に一度、平均的アマチュアは60年に一度、アルバトロスはその二百倍難しいとのこと。月に一回程度の私が達成したことは、天文学的確率か、俺って宇宙人かも？

最後に、北九州錦陵会のゴルフコンペは産声を挙げたばかりです。今回は一組だったのでドラゴン賞やニアピン賞のコンペフラッグを使用しないままホールアウトした事がとても残念でした…。今からでもゴルフを始めても遅くはありませんよ。「ボケないための頭の使い方」は「キョウヨウ」と「キョウイク」なのだという。教養と教育かと思いきや、さにあらず。「今日、用がある」と「今日、行くところがある」の二つである。あした、用事がありま

すか？ あした、行くところがありませんか？ 奥さんに、箒で、いや、電気掃除機で追い払われぬように。濡れ落ち葉、粗大ごみ、などと思われぬように、お外へ出かけて多めに笑いましょ。次回の秋のゴルフコンペは十月二十八日の総会後に開催したいと思います。なお、詳細や参加要領に付きましては、北九州錦陵会のホームページに掲載しますので、多数の参加をお待ちしております。

担当幹事は鬼木元弘（昭和五十一年卒）迄。携帯電話番号〇一〇一〇

また、本部・各支部や錦陵同窓生の皆様と一度、盛大にゴルフコンペが開催出来ればと思っています。

みやこの恋
一祇園の恋

末次辰也

(昭和五十七年卒)

冬枯れの平尾台に日が沈んで行く。伸びゆく影が、落ちた椿を包んでいく。幸成はジャケットからたばこを取り出しオイルライターで火をつけた。たばこの煙が風に流れてかき消されるまで、目で追いかけた。何度か喫み吸い殻を携帯灰皿にしまった頃、陽は沈んでいた。

夕闇が静かに訪れていたが、幸成の胸の奥では真夏の太陽のごときであった。待ち合わせまで時間がまだある。心が躍り、胸の鼓動は高まっていく。顔がほころび、または脅えていたが、やはりほころんでしまう。

出会った時を思い出していた。

今井祇園祭のときだった。僕の実家は横浜で、大学を祖父の家の近くを選んだ。ここには叔父もいて、僕にとっては居心地の良い場所であった。祖父も叔父も風流で、今井の伝統を受け継いでいた。神楽を舞い、連歌を歌い、シャズを聴き、風景画を描く人であった。この親子は、友達であり、師弟であり、伴に時の流れを楽しむ人でもあった。

叔父は僕のために中古車を買ってくれたが、燃料代を稼がなければいけなかった。不本意であるが、バイトをするはめになった。

大学の生活は楽しく、すぐに夏季休暇になった。実家には帰らずエアコン取り付けのバイトをしていた。その時に美幸に出会った。彼女は受験生で、暑い部屋で数学の演習問題を解いていた。が、出来ずにイライラしている様子だったので、エアコンを取り付けながらヒントを与えた。

それから一年たち夜祇園で、出会った。階段の途中で座り込んで下駄を脱いでいた。僕は、声をかけ、下駄を取

りハンカチで鼻緒を結んで渡した。その時に、美幸が、「エアコンの人」と声をかけた。僕はすぐに思い出せず困惑したが、彼女が親しげに話しかけた。他愛もない話でお互いの連絡先を教え合いその時は別れた。

翌日は祇園祭の最終日で、僕は法被を着て山車曳きに向かうところで、彼女からラインがきた。僕は「今日はだめ」の返事をした。心残りがあった。その夜、お詫びの返事を送った。ら、すぐに返信が来た。僕は、盆過ぎまでバイトでその後はレポートをする旨を返信した。僕は、彼女のイメージが湧かず、混乱していた。

数日後、僕は彼女にラインした。断った事で心が痛んでいた。「お昼に食事でも如何ですか」。

「今、高校に来てます」

「高校はどこですか」

「育徳館」

「迎えに行きましょっか」

「嬉しいです。お願いします」

簡単なやりとりを終えて、僕は、気が付いた。わからない。直ぐにiPhoneで調べた。驚いた。歴史ある名門校である。なのに茶摘みをする。笑った。着替えを済ませ、愛車に乗り込みナビをセットした。

彼女の指定場所の「黒門」に着いた。彼女はいなかった。車から降り、

煙草に火をつけた。遠くから「ごめんなさい」と声が聞こえ、走り寄る彼女の姿が愛しく見えた。

美幸は1年過ぎてても変わらず、駆け寄ってきた。幸成は時が過ぎるにつれて愛しさが増すことに嬉しく思う。

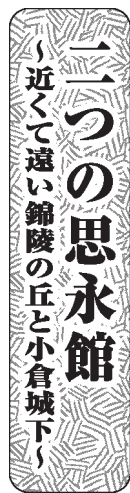
叔父に誘われ祇園祭に出たことがよかった。健速須佐之男命を祀っている。須佐神社に手を合わせた。「戦いの神でもあるが、恋愛の神でもある」。祖父が言っていた通りに、幸成を導いてくれたのであろう。

幸成は、須佐之男命と櫛田姫のように、美幸と一緒にいたいとおもった。

「今日は何食べる」

「パスタかな」

二人は手をつなぎ、楽しそうに歩きはじめた。



野本 誠

(昭和五十七年卒)

僕が通学していた昭和50年代は、体育館とプールの中に挟まれた窮屈な場所、剣道部が部活動で利用していた講堂「思永館」。

また、学年集会の度ごとに集うちっぽけなスペースと古くてオンボロな『思

永館』。当時の記憶では、そんなイメージの『思永館』でした。

平成3年から平成4年までの2年間に改修工事が行われた講堂『思永館』は、建設当時の美しい姿がよみがえり、福岡県指定文化財として大切に保存されています。

現在は、学校の正門近くに移設され、学校のシンボルともいえる『黒門』と共に育徳館中学校・高等学校を代表する建造物として、また福岡県最古の学校建築として講堂『思永館』は誇らしげに鎮座しています。

その講堂『思永館』は、明治35年に旧制福岡県立豊津中学校の講堂として建設されました。

なぜ豊津高校の前進は『育徳館』であったにも関わらず講堂は『思永館』と命名されたのか？そんな疑問を持っていた学生の頃を懐かしく思います。

『思永館』とごっちゃです。思い浮かべるものは、1788年小倉城内三の丸に移された『思永斎』。のちに武芸稽古場が併設され『思永館』と改名された藩校の名称と考える方が最も多くおられるのではないのでしょうか？

小倉城のホームページに記載の小倉城略年譜には、1788年、藩校『思永館』創設と記載もされています。

幕末の動乱に高杉晋作率いる長州藩に攻められ、小倉城を自ら焼き払い退

き、田川郡香春町を経て現在のみやこ町豊津の地に藩を移してきた歴史と共に藩校『思永館』の名称も『育徳館』と改名して現在の育徳館中学校・高等学校と時代と共に名称の変更はされながらも藩の教育の場としてスタートし大切な人材を世に送り出し続けてきた役割は現在の私たちにもしっかりと受け継がれていると確信いたしております。

明治35年建設の旧制豊津中学校講堂は、小倉城下に創設した藩校『思永館』の思いを後世に伝えるべく、講堂『思永館』と命名されたと聞いています。

錦陵魂のルーツである小倉城内に創設された藩校『思永館』。この地を中心に組織されている北九州錦陵会。『思永館』をお膝元に抱える北九州錦陵会の設立は、北九州エリアで活躍のリーダーたちを含め、すでに組織されていた九州電力、TOTO、教職員、北九州市役所錦陵会の方々が中心となり皆さんのご努力により、会が発足されたと聞いております。

まさに小倉城三の丸に創設された藩校『思永館』の創設期の藩士たちと同じ志であったであろうと推察いたします。

その思いを向井正伸初代会長、細川邦典第2代会長、そして現在の井上慎一会長へと脈々と受け継がれてきた錦陵の心。藩校『思永館』の創設に努力した藩の勇士たちの志を胸に更なる次世代へと心をつなぎながら北九州錦陵会が益々こ

繁栄されますことをご祈念いたします。終わりに北九州錦陵会会員の皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

母校、そして故郷までの距離

浦野 恭平

(昭和五十九年卒)

昨年、当番期として「錦陵同窓会総会」の実行委員を務めさせて頂きました。至らぬ点多々あったかと思いますが、皆様の御支援によって総会開催に辿りつくことが出来ました。準備にあたっては企業協賛やお茶の販売に対して多くの御支援を賜り、総会当日もたくさんの皆様に会場に足を運んで頂きました。また、期間中、暖かい励ましの御言葉を頂き、気持ちを切らさずに活動していくことが出来ました。改めて感謝申し上げます。

さて、われわれ36期は「悠久の絆 錦陵の心」というスローガンを掲げ、総会準備に取り組んでまいりましたが、その活動を通じて私自身、友人との絆や母校への思いを新たにすることが出来ました。正直申しまして当初は北九州に居を構えて働く身として、当番期の活動は「地元と同級生に頼らざるを得ないかな」と感じており、同級生から実行委員としての参加の誘いを受けた際も躊躇

しておりました。しかし、当番期を終えた現在では活動に関わることが出来てよかったです、心より感じております。

この間の私の思いの変化には「二つの距離」への懸念とその解消があったように思います。一つは「心の距離」です。卒業後も母校を訪ねたり、市民球場に足を運んで野球部を応援することなどはしていましたが、同窓会活動には関わる事が出来ておらず、正直、敷居が高く感じられていました。実際、初めて参加した実行委員会では、それまでも同窓会に携わってきている友人や顔は知っていても初めて話す同級生に対して遠慮を感じておりました。ただ、さすがに皆、32年、色んな経験を積んできた者同士、いったんスタートすると当初の不安は解消され、事業を終えた現在では多くの同級生と心地よい距離感を築くことが出来たのではないかと感じております。

もう一つは地元への「移動の距離」です。北九州から地元までの道のりや途中の渋滞は、時々帰る際にはあまり気になりませんが、定期的に通うとなると正直しんどいなと感じておりました。しかし、東九州道の開通が今回の活動の大きな助けとなりました。急ぎの際には最寄りの小倉南インターから行橋駅公民館まで20分、豊津の街も在学中の苅田町からの通学の苦労を考えると驚くほど近くなりました。こうして移動の心配が解

消されることで、場所によっては地元と同級生よりも容易に活動に参加することが出来たのかもしれない。

今思うと何でもないことですが、当初の懸念が解消され、多くの同級生とともに豊津や行橋、そして北九州での活動に参加し、その中で同窓会の大切さや故郷の良さを再発見することが出来ました。普段の生活では仕事での人つきあいを中心となってしまいがちですが、高校時代をともしした同級生、そして、多くの先輩方や後輩の皆さんとお話をする時間は、明日の仕事や生活へのモチベーションとなりました。また、今回の行事や皆さんのお話をつづじて京築地方には素晴らしい自然や文化があることを再認識いたしました。美味しいお米とお酒、豊かな海産物に野菜や果物、地域に残る多くの史跡や里山に伝わる神楽、若いころに気づいていなかった故郷をもとめ、当番期が終わった現在も家族を連れて京築に出向くことが増えました。

こうした再発見の機会を与えて下さった同窓会の皆様改めて感謝申し上げます。そして、さまざまな参加の機会があると思いますが、後輩の皆さんにも同窓会活動をつづじて母校や故郷再発見の経験をさせていただければと思います。